

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22055	事業名	障害者総合相談支援センター事業		評価分類	A1		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署		
	施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	04:障がい者の自立と社会参加の促進				款	03:民生費	
		施策の方向	01:障がい者の自立支援				項	01:社会福祉費	
重点プロジェクト		-			目		02:障がい者福祉費		
事業期間	H 19 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律		部	健康福祉部		
課							課	地域福祉課 障がい者支援G	

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	<p>障害者総合支援法に基づき市町村が実施する地域生活支援事業として、平成19年度より「障害者総合相談支援センターあい」を設置し、障がい者及び障がい児の福祉に関する相談窓口として、障がい者等の自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう支援している。</p>	<p>市内に住所を有する障がい者やその介護者、障がい児やその保護者</p>	<p>障がい者等からの相談に応じ、必要な情報の提供、権利擁護のために必要な支援を行うことにより、地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援する。</p>	<p>障害者総合相談支援センターで、福祉に関する相談や、必要な情報の提供、権利の擁護のために必要な支援を行う。また、地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターでは、医療・保健・福祉・教育及び就労等の関係機関との広域ネットワークを継続し、地域の相談支援体制のさらなる充実・強化を図る。</p>

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○障害者総合相談支援センターの運営 ・福祉サービスの利用等に関する支援 ・健康・医療・就労に関する支援 ・療育相談		○障害者総合相談支援センターの運営 ・福祉サービスの利用等に関する支援 ・健康・医療・就労に関する支援 ・療育相談		○障害者総合相談支援センターの運営 ・福祉サービスの利用等に関する支援 ・健康・医療・就労に関する支援 ・療育相談		○障害者総合相談支援センターの運営 ・福祉サービスの利用等に関する支援 ・健康・医療・就労に関する支援 ・療育相談		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	<p>障害者総合相談支援センターにおいて障がい者(児)やその家族等からの相談に応じた情報提供や助言、障がい福祉サービスの利用支援等を行い、障がい者(児)の自立につながる支援を行った。 (主な相談支援の内容) 福祉サービスの利用に関する支援1,318件、不安の解消・情緒安定に関する支援891件、就労に関する支援160件</p>		<p>障がい者(児)やその家族等からの相談に応じた情報提供や助言、障がい福祉サービスの利用支援等を行い、障がい者(児)の自立につながる支援を行った。 (主な相談支援の内容) 福祉サービスの利用に関する支援1,197件、不安の解消・情緒安定に関する支援768件、就労に関する支援87件</p>		<p>障がい者(児)やその家族等からの相談に応じた情報提供や助言、障がい福祉サービスの利用支援等を行い、対象者の自立につながる支援を行った。 (主な相談支援の内容) 福祉サービスの利用に関する支援860件、不安の解消・情緒安定に関する支援727件、就労に関する支援59件</p>				
計画額	事業費	11,200千円	11,140千円	11,200千円	11,072千円	11,200千円	10,463千円	11,200千円		
		国・県支出金	0千円			0千円				
		地方債	0千円				0千円			
		その他	0千円				0千円			
		一般財源	11,200千円	11,140千円	11,200千円	11,072千円	11,200千円	10,463千円	11,200千円	
決算額	事業費	10,640千円		11,072千円		10,463千円				
		国・県支出金	0千円		0千円		0千円			
		地方債	0千円		0千円		0千円			
		その他	0千円		0千円		0千円			
		一般財源	10,640千円		11,072千円		10,463千円			
①期間内計画額(R4-7)		44,800千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額		44,800千円

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	10,463千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	相談者数	成果	人	計画値	105	110	115	120
				実績値	109	111	107	
相談件数	身体・知的・精神障がい者等の相談者実人数	成果	件	計画値	2,900	2,950	3,000	3,050
				実績値	3,208	3,277	2,540	
相談支援事業所担当者連絡会の回数	相談支援事業所担当者連絡会の開催回数	活動	回	計画値	12	12	12	12
				実績値	12	12	12	

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果 (C) B	障がい者(児)やその家族等からの相談に応じた情報提供や助言、障がい福祉サービスの利用支援等を行い、不安の解消や情緒の安定を促すことができた他、対象者の自立支援につながった。
まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市内に住所を有する障がい者やその介護者、障がい児やその保護者	障がい者等からの相談に応じ、必要な情報の提供、権利擁護のために必要な支援を行うことにより、地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援する。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題 (C)
委託してきた鈴鹿市の3法人が人員の都合により、令和7年度以降の受託継続が困難となったことを受け、新たな委託先を確保する必要が生じた。これに対応するため、事業創設当時と比較し、亀山市内での障がい福祉サービスも充実してきていることから、市内に計画相談事業所を構える法人に委託することとした。また、あいあい2階に設置していた事務所を変更することで、より開かれた窓口となるよう工夫した。しかし、事業の継続性やサービスの質の維持が課題であり、利用者への影響がないよう円滑に進める必要がある。

方向性	
⑦ 事業の展開 (A)	
継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	
改善・見直し内容	
令和7年度で対応する(した)もの 6年度より基幹相談機能を市職員が担い、同じフロアでの窓口配置とすることでスムーズな情報共有や相互相談を実現しながら、地域課題への対応を狙う。	令和8年度以降で対応するもの 基幹相談、一般相談が連携してより有意義なものとなるよう仕組みや業務の進め方を検討する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ 履歴				
成果判定	B	B	B	
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	

1次評価者	健康福祉部地域福祉課障がい者支援GL 中川 陽亮
最終評価者	健康福祉部地域福祉課長 佐野 匡史